

岡山県美作圏域での子ども・若者への支援を考える レポート

この度は、本会に参加頂きありがとうございました。講師の方をはじめ皆様方のご協力のもと大変有意義な会を開催することができました。今後もこの会をきっかけに美作圏域での支援体制が充実していくために未来へとしてできることを考え、皆様と一緒に精進していきたいと思っております。簡単ではありますが、下記に本会の感想等を記載しましたのでご一読よろしくお願い致します。

NPO 法人未来へ 事務局

問：勉強会を通して今後の支援の参考になりましたか

- ・知識が共有できてよかった（2人）
- ・情報共有の場が増えれば良いと思った。
- ・他の市や他機関のことが知れて良かった（2人）
- ・色々な取り組みを知ることができて良かった。
- ・行政や民間の両方の意見が聞けて体制作りにおいて参考になった。
- ・支援の在り方、考え方で様々な意見があり、参考になった。
- ・フリートークは想像したより活発に意見が出ていて良かった。
- ・色々な視点からディスカッションができて良かったと思った。
- ・講師の先生の方の取り組みがもっと聞きたいと思った。
- ・母子家庭の自立に向けたビューティーサミットさんの取り組みが大変参考になり、支援からの自立が見えてきました。

問：今後の参考にさせていただきたいので、どのような内容の研修があれば参加したいと思われませんか？具体的にお書きください(例：支援者ネットワーク構築の方法など)

- ・一つの事例に対してのディスカッションなど
- ・さらに多くの自治体の人などが来ていただき、支援の種類等を知ることができるとよいと感じました。
- ・今の状況を知ることが大切と感じている。
- ・発達障害や他の特性など

フリートークの内容

<前方グループより>

■フリースクールの利用について

学校に行きたくない子がフリースクールに行きたいと思っても受講料を払えるお金がないお金がないがそういった子どもこそフリースクールに通うのが望ましいのではフリースクールにも低額のものもある。逆に高額なスクールもある。フリースクールを無料でとなると、民間では限界があり国や県の補助をこういった場に使ってもらえると心強いですが。

■ネットワーク作り

次回もこのような会があれば参加してみたい。

この場がネットワーク作りの第一歩のきっかけづくりとなった。これからこの会を契機にして美作圏域のネットワーク強化の土台を醸成していきたい。

■地域で支えていく重要性

民間のフリースクールや岡山県（岡山市）が幾ら頑張っても、最終的には地域で子どもたちを支えていくのが望ましいと思う。一昔前は、近所のおじちゃん、おばちゃんが、地域の子供を見守っていた。そういった時代に回帰してもいいのでは。

■県から養護施設への質問 現場の実情がどうなっているか

児童養護施設の先生が現在の養護施設の様子を説明した。入居者の状況、施設運営の方向性、小規模分社制、里親制のことなど。

■学校の先生について

不登校の子どもたちは学校の先生が嫌いな傾向があるのでは。

フリースクールでも学校の先生をしていた人は、子どもたちが嫌がるが、民間で働いていた人が先生だと素直に受け入れる。きまりに縛られない自由な活動を望んでいる。

<後方グループより>

■地域資源が少ない。

現状、どこに支援の場所があるのかをマップに書き出してみる。

■まずは子どもたちの居場所や支援者のマップの作成をするというのも1つの方法である。

- 他市町村では市が民間企業に委託して居場所作りをしていることもある。
- 利用者に共感をする必要があるが、同感をしないように気を付けている。
- 支援者支援については職場内で利用者との距離が保てるように職場内で声掛けできるようにしている。また他機関のスーパーバイザーを入れて定期的な研修をしている。
- 支援者が繋がれて支援ができるようなプラットフォームがあればいいのではないか。
- ゲームや SNS などの余暇を過ごすツールが増えて、その中でオンラインでつながりを持つようになったため、自分が好きな時に繋がり、嫌になったら関わらないことができるようになった。外に出て人と関わろうという思いにならない子どもたちが多くなっているように感じる。
- 子どもたちに繋がるためには子ども達の興味があることや流行に敏感になることが大切だと改めて気づいた。
- 「児相には言わないでほしい」と前置きをおいて相談して来られる利用者もいる。児童相談所、民間で相談できる場所の両方が必要。

